



RubyWorld Conference 2025 開催報告

2025年11月6日（木）、7日（金）、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」（島根県松江市）において、17回目となる「RubyWorld Conference 2025」を開催しました。主催はRubyWorld Conference 開催実行委員会（構成機関：Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江工業高等専門学校、ジェトロ島根、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局）であり、多くの関係機関から後援・協賛をいただき実施しました。



17回目となる本国際会議では、Rubyに関するシステム開発事例、教育・研究の紹介、最新技術に関する情報など、多岐にわたるセッションを通じて、より幅広い技術領域におけるRubyの利活用・研究の促進を図りました。国内外21名の講演者にご登壇いただき、2日間の来場者数は延べ884名となりました（詳細は後述）。

また、昨年に続き、Ruby biz Grand prix、RubyWorld Conference、Ruby Prize の3イベントが開催される週を「RubyWeek」と位置づけ、「自由さ、たのしさ、コミュニティへの貢献」という価値観を広く発信するキャンペーンとして、多様な関連イベントが実施されました。

オープニング・セレモニーでは、まつもとゆきひろ実行委員会委員長、丸山達也島根県知事、上定昭仁松江市長の挨拶に続き、ご来賓としてお越し頂いた、独立行政法人 情報処理推進機構 デジタル基盤センター 企画部長（兼）イノベーション部長 下出政樹様よりご挨拶を頂戴しました。



今年の基調講演では、初日にFinplus Group CTO and Co-founder の Bernard Banta 氏に「Sanarei: Offline Web Browsing with Ruby」と題し講演をいただき、2日目にRuby開発者のまつもとゆきひろ委員長が「Rubyコミュニティの30年」と題し講演をおこないました。



また、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰するRuby Prize 2025表彰式が執り行われました。このほか、国内外のRuby技術者および企業関係者による講演が行われ、Rubyのさらなる普及・発展に向けて活発な議論が展開されました。

なお、クロージング・セレモニーにおいては、井上浩実行委員会副委員長より、2日間にわたる議論の総括と来年のRubyWorld Conference開催に向けた意向を表明し、閉幕いたしました。

●来場者について 2日間延べ 884名（11月6日 469名、11月7日 415名）

来場実数 534名（県内301名、県外217名、海外16名）※ 海外・・・国内在住の外国人を含む

- ・IT企業関係者 248名（県内101名、県外138名、海外9名）
- ・その他企業関係者 48名（県内36名、県外12名）
- ・行政関係者 47名（県内40名、県外7名）
- ・研究教育機関関係者 143名（県内112名、県外30名、海外1名）
- ・一般（所属なし） 27名（県内10名、県外14名、海外3名）
- ・講演者 21名（県内2名、県外16名、海外3名）※ Ruby Prize 2025受賞者、最終ノミネート者含む

●講演者について

- ・国内 18名（企業関係者 18名）
- ・海外 3名（アフリカ1名、台湾2名／企業関係者3名）